

令和元年度アンケート（抜粋）

1 今回の研修は有益でしたか。

- 放影研での研修は非常に有益で、新しい技術、手法、考え方を学び、放射線影響についての知識を深め、人体組織への被ばくの影響について以前より理解できるようになりました。
- 廣橋先生と鎌田先生の講義は、今までの緊急被ばく対応の概念を新たにする契機になりました。予測不能な状況では、固定概念にとらわれず決断することも必要であると分かりました。
- 日系人として来広した私にとって、原爆の歴史は心を揺さぶられるものでした。今では、原爆とそれがもたらした結果についての詳細が、医師としてはっきりしたものになりました。

2. この研修で得た知識、または技術を実際にどのように利用するつもりか説明してください。

- (LAの)「災害医療ボランティア」と知識を共有したいと思います。選ぶべきトピックは沢山あり、特に放射線による染色体の損傷については、多くの方が興味を持つと思います。
- これまで持っていた放射線防護の概念から一歩前に進み、予測できない状況ではどのように対処すべきかを考え、マニュアル化してみたいと思います。
- 学んだ内容を大学の同僚や学生達と共有し、核兵器や核事故による被ばくの健康影響についての意識を高めていきたいと思います。そしてこれらの相互作用が刺激となって、科学的・医学的両面から日本の研究者や医師達と共同研究を行おうとする動きにつながればと願っています。

3. HICARE の事業をより改善するために、今回の研修に関するあなたのご意見をお聞かせください。カリキュラムや期間、その他について。

- 対応事例や被爆体験のプログラムは良かったが、実際の放射線災害対応のワークショップがあればなお良かったです。(その場合は期間を2,3日延ばさなければいけないと思う)。
- 個人的には広島大学の放射線治療施設などを見学したかったのですが日程に入っていないので残念です。

4. 広島での滞在について

(1) 広島での生活にどのような印象を持たれたか教えてください。

- 人は親切で教養があり健康意識が高く、大きすぎもせずとても良い街だと思いました。
- 平和公園や広島城を朝晩散策したのは長く記憶にのこりそうな体験でした。

(2) 広島での滞在中、日常生活で不便を感じたことがあれば教えてください。

- 滞在はすばらしく不便はありませんでした。あちこち行きましたがとても便利で安全でした。ホテルは飲食街の近くですし、バス停はホテルの目の前でした。
- 研究機関（RERF）や病院が直面してきた問題について、また人々への心理的影響、社会援護制度についてさらに詳しく聞けたら良かったと思います。

5. 研修を終えて感じたこと

- 原爆養護ホームでの被爆体験談はその前に訪れた平和資料館、平和公園、原爆ドームの実態を生々しく経験したようで胸が痛みました。
- 皆さんの温かい受入れに心より感謝します。この訪問を契機に、将来どのような協働ができるかについて、もっと広く新しい視野に立ってやり取りを始められれば良いと思います。